



この笑顔があれば大丈夫



初雪盃 純米大吟醸と特別純米酒



美味しい料理とお酒にご満悦



丸鷹産業 矢野社長の乾杯



「いん会の会」の楽しみ日記(41)

「いん会の会」の巻



『「いんの会」には暗い話はありません。いつも前向き、ハイヨロコンデーの会です。会則もありませんし、出欠も自由ですが、必ず返事をお願いしています。』

二ヶ月に一度、美味しい郷土料理を食べながら砥部の地酒「初雪盃」を愛でる単なる飲み会ですが毎回三十数名の仲間が集まって来ます。

さて、「いんの会」は私が勝手に付けた名前ですが「縁・O・宴・円・えん(家)」「五つのでん」を大切にしようと、もじったものです。

そもそも平成二十一年エーシーの森田社長が当時の三浦工業の高橋社長、愛大の小松学長、高島屋の山本専務そして何故か砥部町長であった私にも声がかかって作った「笑門会」が源です。笑門会は次々と入会者があり(現在は百名超)えん家では収容しきれなくなり、止むなく会場を変更することになりました。

日頃より清家社長のお人柄と心のこもった料理を楽しみにしていましたので他のお店に移ることに一抹の寂しさと申し訳なさを感じていました。

そんな時、ちよっぴり男気も働いてそれならと立ち上げたのが「いんの会」です。私の親しくお付き合いをさせて頂いている同年代の方々と私が若い頃からお世話になった方の息子さん、それと地元砥部の町長、県議、砥部焼窯元、初雪盃の蔵元さん

など多彩なメンバーが集まって来ました。宴席では「知つとるヨ、あんたが息子さん」「雲の上の人とと思っていたのに……」等々。和やかな二世世代交流が続いています。

松商を卒業して間もない頃、何のあてもツテもなく営業でお伺いした先で、中村君は松商かワシも松商よ、「お頑張りヨ」と言ってお客様を紹介して下さいました先輩の顔と言葉を思い出しながら会のお世話をさせて頂いています。

中村 剛志

平成28年11月号